

令和4年度 国際交流事業（諫早市教育委員会委託事業）
English Day Camp～自然の中で英語を楽しもう！～

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家

〔期日〕 令和4年10月1日（土）

〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家

〔参加者〕 諫早市内の小学3・4年生 児童45名（男子16名、女子29名）

〔担当職員〕 西田 尚由

〔外部講師等〕 諫早市教育委員会学校教育課職員（6名）

諫早市教育委員会ALT（9名）

鎮西学院大学学生サポーター（5名）

1) 事業の趣旨

自然の中で英語を聞いたり話したり人に伝える活動や外国人との交流を通して、英語でのコミュニケーションを図ることの楽しさを感じるにより、コミュニケーションを図る素地となる資質を育てる。

2) 目標

- ①英語をたくさん使って、英語でのコミュニケーションの楽しさを感じる。
- ②キーワード（色・形・数字）を積極的に使おうとする。

3) 研修プログラム

10月1日（土）	
9:00	自然の家到着・受付
9:20	はじまりの会【写真①】 ・ハローソング、スタッフ自己紹介等
9:45	英語で友だちになろう！ ・英語でじゃんけん自己紹介ゲーム【写真②】 ・“色”、“形”を使ったゲーム【写真③④】
10:30	英語で楽しく森のビンゴ（フィールドビンゴ） ・野外で“色”、“形”を探すゲーム【写真⑤】
12:00	昼食（レストラン）
13:00	森のスタンプ（葉っぱのスタンプ）【写真⑥】 ・葉っぱに絵の具を塗って、オリジナルエコバッグを作る。
14:30	おわりの会 ・振り返り、アンケート記入 ・グッバイソング
15:00	自然の家出発

4) 事業展開

① はじまりの会（ハローソング）



事業の最初と最後にALTの先生の伴奏による“ハローソング”、“グッバイソング”で、みんなで楽しく英語の歌を歌いました。緊張した中で活動が始まりましたが、歌うことで、心もほぐれ、笑顔で活動を進めることができました。

② 英語でじゃんけん自己紹介ゲーム



英語でじゃんけんをして、勝った方から自己紹介をしました。簡単な英語を使いながら、初めて出会った児童同士で楽しくコミュニケーションをしました。

③ “色”を使ったゲーム



9種類の“色”についての英単語を学び、表現しました。じゃんけんゲーム等も織り交ぜながら、繰り返し何度も発声することで、単語を覚え、活用できるようになりました。

④ “形”を使ったゲーム



9種類の“形”についての英単語を学び、ロープを用いて形を表現しました。英語で指示された形について、班の仲間と協力しながらロープを使って、指示された形を作りました。

⑤ 森のビンゴ



班ごとに森を散策しながら葉っぱの色や木の実の形等を英語で表現しました。途中、午後のクラフトで使う葉っぱや木の枝、木の実等を収集しました。

⑥ 森のスタンプ



キャンプの思い出として、オリジナルエコバックを作成しました。森で採集した葉っぱ等に絵の具を塗り、エコバッグに押し付け、模様を付けました。個性あふれる作品が多く完成しました。

5) 評価

① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
77%	21%	0%	2%

② 参加者の声

- ・色々な英語を覚えたり、形、色、数の英語を言えてよかった。
- ・森で木の実をひろいながら、先生が決めた色や形を見つけるゲームが楽しかった。
- ・スタンプでオリジナルのエコバックを作って楽しかった。
- ・英語で話すことにチャレンジできた。
- ・ALTの先生たちとたくさん英語でお話できた。
- ・英語で友だちとたくさん話して、友だちをたくさんつくることができた。
- ・最初は緊張したけど、最後は楽しかった。もっと英語で話したい。
- ・英語をこんなに楽しく学べることを知った。
- ・これからも英語をつかって友だちをつくる。

6) 成果と課題

① 成果

- ・打ち合わせの段階からALTにも参加していただいたことで、ALTとも活動内容の共有ができ、英語を活用する部分の多くをALTに任せることができたため、正しい英語を活用しながら活動することができた。
- ・始めて出会った参加者同士でもお互いに英語でコミュニケーションを取り合うことができ、最後まで楽しく活動できた。
- ・事業の最初と最後にALTのギター伴奏による歌を歌うことで参加者の雰囲気も明るくなり、楽しく活動することができた。
- ・活動の最初にALTによるデモンストレーションを行ったことで、参加者も活動がわかりやすく、安心感を持って活動に取り組むことができた。
- ・グループ数(9G)に合わせて“色”を9色紹介したが、量的にちょうどよく、参加者も覚えられた。
- ・“色”と“形”の2つにポイントを絞り意識させながら活動することで、参加者も目的を理解して活動することができた。

② 課題

- ・活動の始めの方では、他の参加者と上手に関わるできない参加者もいたため、最初は小グループから始めて、段階的に人数を増やしていくとよかった。
- ・「森のビンゴ」では、実際にビンゴを作らせると、参加者ももっと意欲的に取り組めた。
- ・「森のスタンプ」では、みんな楽しそうに活動できていたが、作業に意識が向いてしまい、英語の活用が少なくなってしまう。
- ・1つ1つのプログラムの活動時間が長く、ゆったりとしていたため、もう少し短く区切って活動してもよかった。